

ポテトデキストロース寒天培地（粉末培地） 使用説明書

マイクロバイオ株式会社

1. 特徴

このポテトデキストロース寒天培地は、検体中の真菌(カビ・酵母)を迅速に分離検出できるようにしたもので、各種抑制剤によりその他の微生物を抑制します。

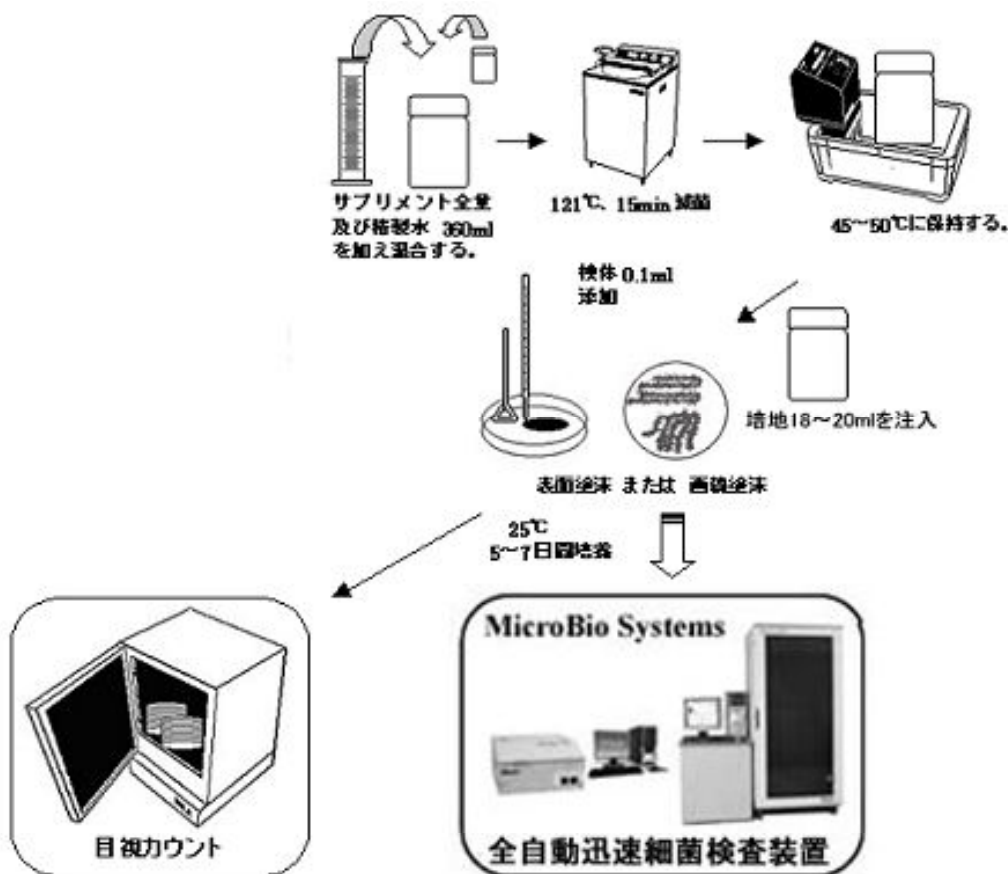
2. 概要

ポテトデキストロース寒天培地は、真菌(カビ・酵母)を把握するのに用いられます。真菌は、土壌・空気・水などに広く分布し、食品の変敗を引き起こしたりする菌種もありますが、カビ毒を産生する病原性の菌種も存在します。一方では、発酵食品や抗生物質などの有効物質の産生に欠かす事の出来ない菌種も存在します。

3. 使用方法

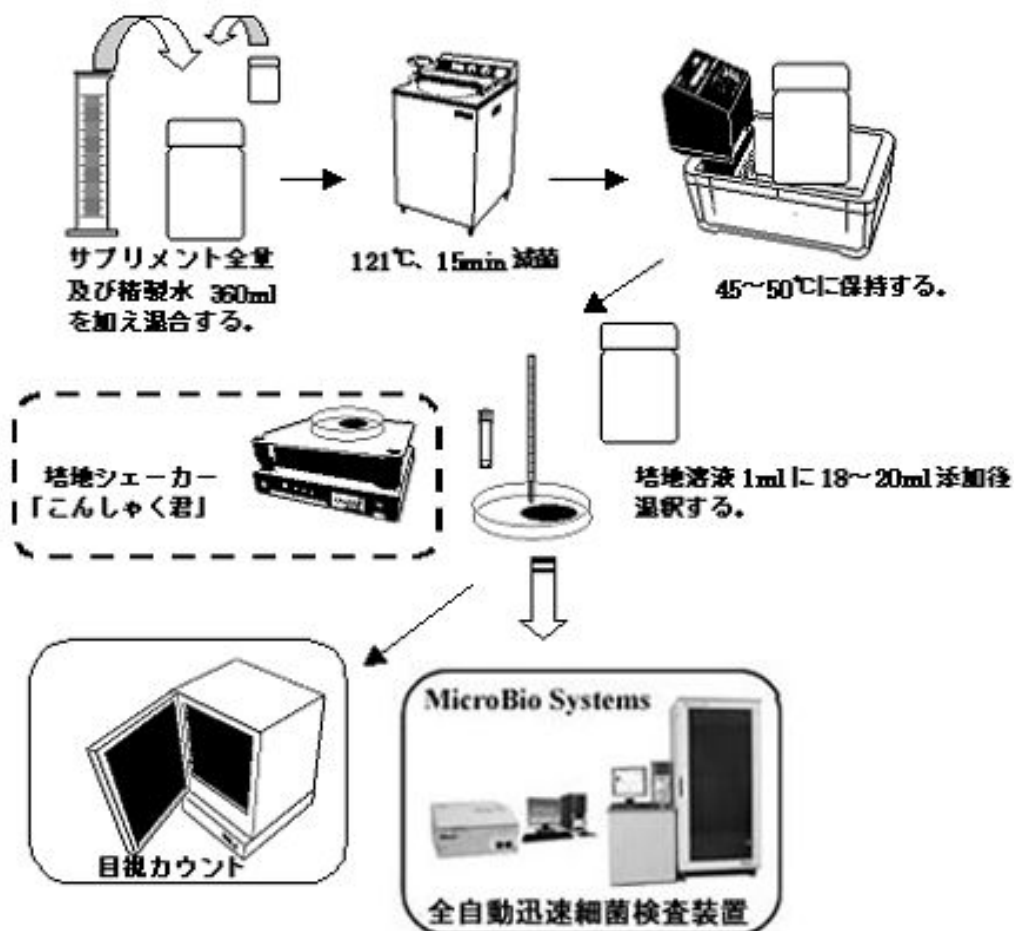
3-1 0.1ml 表面塗抹 または 画線塗抹の場合

- 3-1-1 粉末寒天培地の入ったポリプロピレン容器にサプリメント全量及び精製水360mlを加え、よく振って混和させ、溶解します。
- 3-1-2 容器のキャップをゆるめに締め、オートクレーブに容器を入れて、温度を121℃に設定して15分間滅菌します。
- 3-1-3 塗抹の場合は、検体を培地表面に0.1mlを添加し、スプレッダー等で全面に広げ15～20分程度静置させます。画線塗抹の場合は、検体または菌床から白金耳でサンプルを取り出し、培地表面へ目的に合うような画線塗抹をします。
- 3-1-4 培地は蓋を下にし、20～25℃で5～7日間培養します。MicroBio system で測定すれば全自動で速く正確にコロニー数をカウントできます。



3-2 混釈培養法の場合

- 3-2-1 粉末寒天培地の入ったポリプロピレン容器にサプリメント全量及び精製水360mlを加え、よく振って混和させ、溶解します。
- 3-2-2 容器のキャップをゆるめに締め、オートクレーブに容器を入れて、温度を121℃に設定して15分間滅菌します。
- 3-2-3 上記溶液を45～50℃に保持し、試料が1ml注入されたシャーレに培地溶液18～20ml加え、混釈します。(弊社製品“こんしゃく君”を使用すれば、よりムラなく一定に混釈できます。)
- 3-2-4 培地を冷却凝固させ、乾燥させた後、蓋を下にし25℃にて培養します。MicroBio system で測定すれば全自動で速く正確にコロニー数をカウントできます。

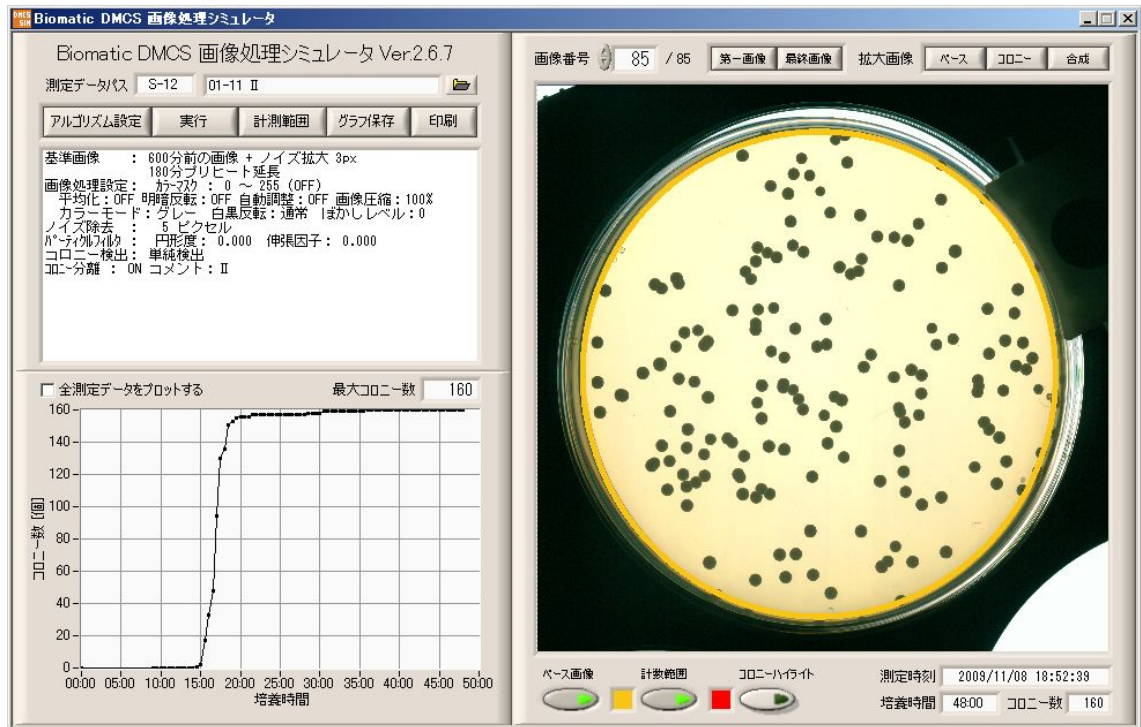


4. 培地の保管方法

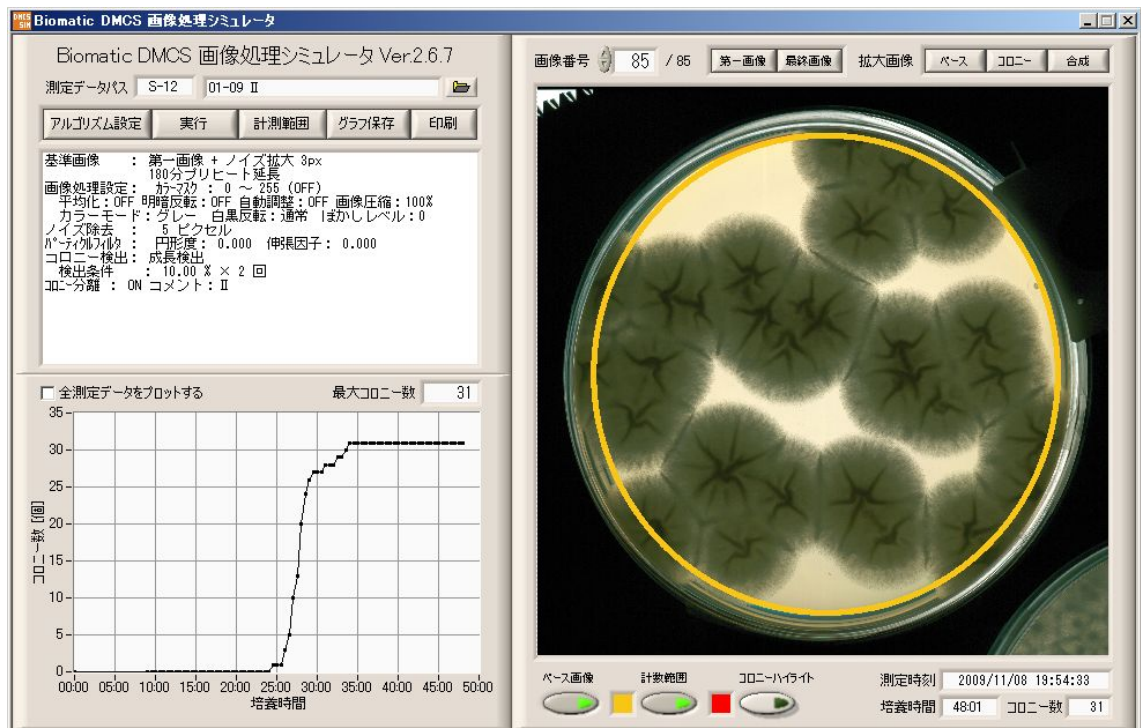
培地の保管は、暗所で室温保存(20℃以上)して下さい。

5. MicroBio system を使用した DCM008 の発育測定例 28°C培養

5-1 表面塗抹: 標準菌株 *Candida albicans* (NBRC1594) DCM008 での発育



5-2 表面塗抹: 標準菌株 *Aspergillus niger* (NBRC9455) DCM008 での発育



5-3 表面塗抹：標準菌株 *Exophiala jeanselmei* (NBRC6858) DCM008での発育

